

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171200308		
法人名	有限会社 クオーレ		
事業所名	グループホーム クオーレ基山		
所在地	佐賀県三養基郡基山町大字宮浦字塚原885番6		
自己評価作成日	平成25年4月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成 25 年 4 月 24 日	外部評価確定日	平成25年5月21日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・ご家族との交流を図る為に家族会を行い、アンケート調査や利用者様の状況などを報告している。 ・季節感を味わっていただく為にホーム内の掲示物を変えたりバスハイクを行っている。 ・利用者様の誕生日をその日に行い入居者のご家族の方、ボランティア、スタッフでお祝いしている。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>南北に走っている筑紫野バイパスの宮浦インターより東へ1分程、JR基山駅から西へ3分程の田園地帯の一角に位置した平屋造りのホームで、居室には南からの暖かい陽射しが入り、又、リビングは東南に広々と設えられ、ゆったりと寛ぐ事ができる。玄関からリビングには入居者の皆様と作った小物を置いたり、季節を感じさせる貼り絵や折り紙の作品・ジグソーパズルの花額等を飾り、心和むような工夫をしている。入居者の誕生日には、家族や親しい人やボランティアの方と一緒に食事を楽しんでいる。医療面も複数の協力病院と訪問看護ステーションの24時間対応が出来ている。今年3月にはスプリンクラーの設備と自動通報システム(消防署と全職員・地域住民)の整備をして、より安心・安全に配慮した支援に励んでいる。又、基山町委託の「こども見守り110番」の旗も掲げ、地域と共に歩んでいる。</p>
---

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミニカンファレンス時に理念を読み上げて少しでも理念に近づけるように日々取り組んでいる。	理念である「お一人お一人を大切に、一歩でも家庭の生活に近づけるように努めます」を毎日の申し送り時やミーティング時にスタッフで唱和して、入居者の日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣から野菜などを頂いたり、ボランティアに来てもらっている。110番の看板を掲げている。時々子供たちがトイレを借りたり、お茶を飲んだり利用してもらっている。	自治会にも加入し、行政へは広報紙の配布もしており、また、区長を通じて行事にも積極的に参加している。「子供110番」にも基山町より委嘱を受け協力している。学校帰りに学童が立ち寄る時もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を行い、認知症について理解してもらっている。三ヶ月に一度ホーム便りを配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回行い、活動情報や利用者様の状態を報告し参加者から意見や要望を出してもらいすみやかに検討会議を行い今後のサービスに活かしている。	運営推進会議は区長・民生委員・地権者・地域包括支援センター職員・家族等の多数の参加を得て2カ月に1回実施しており、行事や入居者の状況を報告し、双方向より意見交換をし、サービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター、介護保険課の方に三ヶ月に一度ホーム便りを配布している。また、三ヶ月に一度安心相談委員に立ち寄って頂きアドバイスを受けている。	三ヶ月に1回ホーム便りを作成して、地域包括支援センターと基山町へ持参し、ホームの実情を報告している。又、介護保険組合からの委嘱による介護相談員の訪問もあり、行政との連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修を行い、職員全員が拘束について知ってもらう様にしている。行う場合は、必ず家族から同意書をお願い記録に残し、外す検討も行っている。	職員は身体拘束の弊害を正しく理解しており、玄関の鍵掛けや入居者への身体拘束は無い。内部研修を実施したり、外部研修にも参加をして、身体拘束をしないケアに日々取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての内部研修を行い、職員全員が理解し、起きないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度についての内部研修を行っている。必要な人に対しては、それを活用出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書を提示と料金等を詳しく説明し同意を得る様にしている。解約については家族に十分な説明、話し合いを行い理解と納得の上で解約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情を受けるホーム側の窓口が分かるように明示している。意見箱を設置している。出された意見や苦情は、会議で話し合い運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置しているが、書簡での意見等は無い。訪問時に話し易い雰囲気づくりをしたり、家族会の折にアンケートをお願いしたりと工夫をし、意見や要望等の表出をお願いしている。出された意見は職員で協議し、運営やケアに活かすようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議において意見や提案を聞く様にしており、出された意見については全員で話し合いをして仕事に反映させている。	月に1回全員参加による職員会議を実施しており、そこで出された意見は全員で協議し、ケアに活かすようにしている。又、個人的な意見は、チーフから管理者へ伝達するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議で仕事上の問題点を話し合い、働きやすい方向に行くように改善出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会主催の研修には、必ず参加するように努めている。研修で学んだことを職員全員に伝達しホームで活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、他の事業所の方の意見などを取り入れサービスの質の向上させている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の困っている事や要望があれば話を聞きその内容をプランに取り組みようとしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望などを聞きその内容をプランに取り組みようとしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族と話し、今必要な支援について話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事はして頂き出来ない事は職員と一緒にやって行っている。困難な時は介助をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に一回家族会を行い家族、利用者様、職員の交流の場を設けている。また、面会時にも利用者様の日頃の様子を伝える様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会をしてもらっている。その際は居室に案内し、お茶を飲みながらゆっくりとお話をしてもらっている。	月1回は花見やドライブを計画して、馴染みの場所等に出掛けている。又、地域の方々の傾聴ボランティアやフルート演奏や舞踊等種々の訪問も多く、誕生会に合わせての訪問もお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がうまくいくように職員が間に入り調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今のところないが今後あればホームに遊びに来てもらったり、行事に参加してもらおう様にする。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活の中で本人がやりたい事、したい事の把握に努めている。困難な場合は家族と相談し希望に近づけられるように努めている。	常日頃のケアの中の食事介助時や入浴の支援、おやつの際に、職員は会話を通して入居者の思いや希望の把握に努めている。困難な入居者は家族と相談し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、ご家族から聞き取りを行い、それを参考にし、経験やできる事を見極めて対応している。また、ご家族や知人の面会時には、折に触れて話を聞いたりして少しずつ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLの状態を把握しそれに合わせた支援を行っている。また、生活記録を作成し日々の状態や様子を確認できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、本人より聞き取りを行いケアプランを作成している。作成時はケア会議で話し合いを行いケアプランを作成している。	介護計画は月1回のケア会議において全職員の意見や家族・本人の希望、医師・看護師等の観察を加味して協議している。ケアプランの変更が必要な時はケアマネジャーが検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、その日の勤務者が一人一人の状態や変化を記入している。月末にまとめを行っており、それによって本人にあった介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態に合わせて必要なサービスについて考えている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんの協力により紙芝居や演奏(フルート、大正琴)をして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が希望するかかりつけ医を利用できるようにしている。希望者には、訪問診療も支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医を支援している。ホームの協力医院である内科医の2週間に1回の往診があるが、他の診療科受診については基本的に家族の付き添いとしている。訪問看護ステーションの看護師の訪問を毎週受け、医師との連携を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の日常の観察を密にし、異常時は、看護職員に情報を伝え、適切な受診や看護が受けられるように話をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は頻繁に面会をし、ご家族、看護師、医師との話し合いを少しでも早く退院出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りを入居時に説明、同意書を受けている。かかりつけ医との連携を取って行っている。	重度化や終末期の看取りについては、入居時に本人や家族に説明し同意を得ている。かかりつけ医と訪問看護師と連携を取り、職員の協力の下に今年2人の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しそれに沿って定期的に訓練を行い初期対応出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成しており年二回避難訓練を行っている。緊急時は地域の人々に協力してもらえそうな体制は出来ている。	火災訓練を消防署の立会いの下に実施しており、夜間想定訓練も行っている。避難場所は駐車場と定め、二次避難所は基山町防災計画により多目的広場となっている。自動通報システムにより全職員と隣接の地域の方へ一斉に緊急連絡が出来るようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目線を合わせ、話をしたり、利用者様に合わせて対応するように心がけている。	毎日のレクリエーションやおやつ・食事介助で接する時、人生の先輩として敬う言葉かけをしており、排泄や入浴の支援をする時にも十分に配慮した対応に心掛けている。接遇研修も行いながらサービス提供をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつでも選択できるような声掛けを心がけている。利用者様に決定権を持たせるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切にし希望や状態に合わせたケアが出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望などを尊重している。家族会や外出する時はお化粧をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなどは、利用者様と一緒に行った一人一人の好みを聞くなどして、食事が楽しみになるように心がけている。	入居者にとって食事は楽しみのもので、入居者は力量に合ったお手伝いをされており、毎日のメニューも入居者が掲示されている。職員も介助しながら一緒に食事を摂り、楽しい一時になるよう配慮している。献立は3ヶ月毎に嗜好調査をして献立委員会に諮って決めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスを管理し一人一人の状態に合わせた支援をしている。水分摂取は、最低でも一日五回行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、歯磨きを行い出来ない人は職員が介助している。義歯については、洗浄剤で洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿チェックを行い、一人一人の排泄パターンを把握し、自立に向けて支援を行っている。	排泄のチェック表を用いてパターンを把握し、声掛けをしながらトイレ誘導をし、自立に向けた支援をしている。パンツとパット、リハビリパンツとパット、オムツとそれぞれ個人の状況にあった支援である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘しないように料理の工夫及び水分補給や運動を行い予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人ゆっくりと入浴して頂いている。今の所は希望者はいないがいつでも出来る様に対応している。	入浴は週2回と決めているが、希望があればいつでも入浴出来るようになっている。シャワーチェアも2台用意されている。場合によっては、足浴を訪問看護師が対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活リズムに合わせた生活をして頂いている。リビングでTVを見たり、居室で休憩をされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬をケースごと管理し、服薬の時は職員が確認を行っている。症状の変化がある場合は看護師より医師に報告し、指示を受ける様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に合わせて食事の準備やテーブル拭きを行って頂いている。嗜好調査を行い出来るだけ利用者様の好みを把握している。気分転換を図る為バスハイクなどに参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば外出が出来るように支援している。天気のいい日は外でレクリエーションをしている。	事業所玄関横にウッドテーブルと椅子が有り、気候の良い日は外に腰掛けられ、すぐ前の山と基山庁舎と車の往来も見え、生活感を味わえる。又、月1回はドライブの計画もされており、外出の機会も多い。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある利用者様のみ自分で小銭程度は管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話をかけてなどの要求には対応している。年賀状や暑中お見舞い等をご家族や知人に出される際は傍に付き添い書き方などを教えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングなど、季節が感じられるようにお花やその月ごとの行事の絵などを貼るようにしている。	玄関やリビングには入居者が布で作った作品を並べたり、壁にはこいのぼりや菖蒲の花の貼り絵を飾ったりして季節感を表している。リビングからの田園風景も心が和むし、南面の花壇も手入れが行き届き、花が咲いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングはソファもあり気の合う人同士で話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅などで使用されていた家具などを持って来られ居心地良く生活して頂けるように工夫している。	入居者はそれぞれ自宅で使用していた椅子や衣装ダンス、テレビ等を置き、壁には家族との写真等を飾り、居心地良く過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状況に合わせ生活が出来るように支援している。安全に生活が出来る様にトイレや廊下などの必要な所には手摺りを設置している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない